

2 0 2 0 年度事業報告書

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

公益財団法人 全国青少年教化協議会

事業報告目次

I 教化事業（公益目的事業1）

- 1 青少年健全育成推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1 ～ P. 4
- 2 公益活動推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4 ～ P. 6
- 3 臨床仏教研究所運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 6 ～ P. 8
- 4 出版事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 8 ～ P. 9

II 表彰事業（公益目的事業2）・・・・・・・・ P. 9～P. 10

III 災害支援事業（公益目的事業3）・・・・・・・・ P. 10

IV 管理・・・・・・・・ P. 10

事業報告付属明細書・・・・・・・・ P. 11

2020年度事業報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

I 教化事業（公益目的事業1）

仏教精神に基づき青少幼年をはじめとするすべての人々の心身と人格の健全な向上を図る事業

1 青少年健全育成推進事業

(1) 仏教子ども会活動の推進事業

①花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

②成道会全国こども大会の開催推進

令和2年12月8日前後の日曜日を中心に府県青少協・活動寺院・仏教系幼稚園他全国約45会場で開催した。

※参加者＝約9,000名（うち児童約5,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話等）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）等多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル（読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社からの助成品）を送付、各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社

③「コミュニケーション・スキルアップ」小冊子の配布

子どもたちのコミュニケーションを円滑に進めいじめや自死等の防止に資するため「コミュニケーション・スキルアップ」冊子を要請に応じて必要部数配布した。

(2) 青少年教化研修会等の開催事業

①「子どもたちに豊かな環境をつなぐキャンペーン」のキックオフ

負の遺産を子どもたちに残さないために、仏教者が連帯して釈尊が説いた縁起観（相互依存性）に基づき、環境破壊から環境再生へと強い意志を持って実践するものである。これにより、社会全体が少欲知足を旨とする発展的な「共生社会」へと転換し、豊かな環境を子どもたちにつないで行くことを目指す。（公益社団法人全日本仏教婦人連盟・公益社団法人日本仏教保育協会との協働事業）

※ねらい

1. 現状の環境問題について理解し考える機会を提供する。
2. 子どもたちに豊かな地球環境を継承する。
3. 少欲知足に基づいた発展的な共生社会の実現に寄与する。

※参加団体（3団体）：

公益財団法人全国青少年教化協議会・公益社団法人全日本仏教婦人連盟・公益社団法人日本仏教保育協会

※内容：

仏教三団体共同アクションプラン（第1期2020年～2025年 第2期2026年～2030年）

1. 各団体の既存事業に環境をテーマにアレンジメントを加え実施する
2. 内閣総理大臣・環境大臣・文科大臣及び与野党代表者等へ要望書を提出する
3. 年一回、三団体共同イベントを開催する
4. 教員・指導者向けガイドライン・マニュアルをメディアミックスで配信する
5. 子ども向けの環境グッズを開発し配布又は頒布する
6. 子ども向けアウトリーチプログラムを作成し実施する
7. エコ寺院宣言・活動の啓発普及を行う
8. 年二回、連絡会議を開催する
9. 各年度に事業評価を実施する
10. その他時宜に叶った活動を行う

②2020年度指導者研修会（臨床仏教研究所公開研究会と同時開催）

「いのちの共生を考える」～新型コロナ時代における社会の在り方～

※日 時＝令和2年11月18日（水）

※会 場＝東京グランドホテル「芙蓉」の間・曹洞宗檀信徒会館

※基調発題：大井 玄 先生（公衆衛生学者・東京大学名誉教授・臨床仏教研究所アドヴァイザー）

※「子ども達に豊かな地球をつなぐキャンペーン」プレスリリース

：高山久照（公社）日本仏教保育協会理事長／本多端子（公社）全日本仏教婦人連盟理事長

神 仁（公財）全国青少年教化協議会常任理事

※目 的＝新型コロナウイルスCOVID-19の大流行は、私たちの生活様式を変えつつある。私たちは地球の長い歴史を通じてさまざまな微生物と共生してきた。パンデミックに関連するヒトと感染症のかかわりの歴史を顧みると、まさに「無常」「無我」「相依相関」という釈尊の説かれた存在の関係性がつねに成り立っていることを痛感する。今日起こっている新型ウイルスの流行や環境問題等は、私たちがさまざまな「いのち」の中で生かされていることを感じ、地球上のすべてのいのちを慈しみ尊ぶ姿勢の重要性を示唆しているようである。私たちがさまざまな「いのち」の中で生かされていることを感じ、子どもたちの豊かな未来のために、大人や社会が実践し伝えていけることは何かについて考える契機としたい。

（3）青少幼年支援ネットワーク拡充事業

① 青少幼年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO、公益法人等との活動連携

1) 青少幼年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校等、青少年教化活動を行っている寺院の活動状況について聞き取り調査をした。

2) 青少幼年を対象にした活動及び研究に関する情報収集

青少幼年問題に関する情報を広く収集するとともに、他団体が主催する青少幼年関係の研修会等にも参加し、その活動内容を把握した。又、加盟教団等の不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集を行った。

3) 仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

青少幼年に関する活動を行っている仏教団体、仏教系大学の児童研究会等と連絡を取り、情報交換を行い、連携事業の展開に向けて検討を行った。

4) 子ども支援系NPO・公益法人・学会等との情報交換及び活動の連携

チャイルドライン支援センター、オレンジリボン、全国フリースクール協議会、いのちの電話、全国社会福

祉協議会、日本仏教教育学会、日本精神衛生学会、日本電話相談学会、日本虐待防止学会など、青少年の健全育成や子育て支援について活動を行っているNPO、公益法人、学会等との情報交換を促進し、活動の連携を行った。

② 文部科学省、厚生労働省、他行政機関との子ども・若者の支援のあり方についての協議・連携

1) 文部科学省いじめ防止対策推進室との協議・連携

昨今深刻化している青少年のSNSを通じたいじめの深刻化に関して、文部科学省いじめ防止対策推進室と情報交換を行い、子どもたちの現状を把握するとともに、いじめ防止及び緊急対応に関する施策の推進を依頼した。

2) 厚生労働省自殺対策推進室との協議・連携

子どもや若者をはじめとする若年層の自殺者数が高止まりを続ける中、自死予防活動等に関する協議を厚生労働省自殺対策推進室と行い、今後の施策についての協議と民間活動の支援について依頼を行った。特にSNSを巡るいじめや自殺等に関する対策について議論し、相談体制についてのガイドライン「自殺対策におけるSNS相談事業ガイドライン」の普及に協力した。

3) 都道府県市町村社会福祉協議会等との協議・連携

被災地域における各社会福祉協議会と協議を行い、被災下における子どもの心のケアのあり方や過疎地域での支援のあり方についての共有を行った。

③ 府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

1) 活動協賛

・第14回「ほとけさまの絵コンクール」の後援及び協賛

大阪青少年教化協議会主催の「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛した。

※公募期間＝令和2年12月～3年2月

※主 催＝大阪青少年教化協議会

※後 援＝大阪市仏教会・全国青少年教化協議会 他

・第5回「こころの絵本大賞」の後援

公益財団法人仏教伝道協会が主催する「こころの絵本大賞」を後援した。

※テーマ＝「家族 友だち 勇気 いのち 思いやり 愛情」

※主 催＝公益財団法人仏教伝道協会

※協 賛＝鈴木出版株式会社

※後 援＝全国青少年教化協議会／毎日新聞社／日本仏教保育協会

2) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

協力企業の株式会社よみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、役員2名他が出仕し、同聖地公園にて法要を執り行った。

※日 時＝令和2年9月24日（木）

※会 場＝よみうりランド聖地公園（東京都稲城市）

④ 加盟教団等との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。又、必要に応じて資料の提供

や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

1) 「現代教化法研究協議会」(加盟教団教化部門代表者会議)の開催

※新型コロナウイルス感染拡大の為、企画協議のみ行った。次年度以降はONLINE併用により開催予定。

2) 加盟教団・関係諸団体等への講師派遣及び及び協力

加盟教団、関連団体、大学、学会等の要請によりONLINEを利用した研修会・講習会等への講師派遣を行った。(日本電話相談学会第33回大会、2020年度International Network of Engaged Buddhism 世界大会他)

(4) 少年法適応年齢引き下げに反対する各界懇談会への参加

① 「少年法適応年齢引き下げに反対する」意見書の提出

法制審議会で議論されている少年法適応年齢引き下げについて、日本弁護士会館において他団体と複数回懇談会を開催し、前年度に15団体協働で法務大臣宛に提出した「少年法適応年齢引き下げに反対する」意見書に関してロビー活動を行うなどして内容の浸透を図った。また、賛同団体の拡充にも努めた。

(協働団体: 日本児童青年精神医学会、子どもシェルター全国ネットワーク会議、主婦連合会、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、全国地域婦人団体連絡協議会、全司法労働組合、全日本教職員組合、東京都地域婦人団体連盟、日本子どもソーシャルワーク協会、日本子どもを守る会、日本弁護士連合会、被害者と司法を考える会、非行克服支援センター、「非行」と向き合う親たちの会 他)

(5) 教化活動広報事業

① インターネットによる情報収集及び発信

公式ホームページやブログ、フェイスブック等各種ソーシャルメディアを利用して青少年問題や活動者に関する情報を収集し、全青協の活動情報と合わせて情報の発信を行った。

② 「Web 現代名僧墨蹟展」の運営

伝統仏教各宗派管長、大本山貫首をはじめとする高僧・名僧、又、茶道家元ら文化人より寄せられた書画作品をホームページ上に掲載し、広く一般の人々が心の安らぎや豊かさを感じ得るように試みた。

③ 『こころの処方箋 (仮題)』の刊行準備

ぴっばらに毎号連載された現代人が抱える子育て問題を中心に支援者がどのようにケアに取り組むべきかを提示するブックレットの刊行準備を行った。

2 公益活動推進事業

(1) てらネットEN関連事業の実施

① 不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の為、次期企画協議のみ実施した。

② 「寺子屋ふぁみりあ」のホームページの運営

ひきこもり状態にある当事者の家族向けのセミナー「寺子屋ふぁみりあ」の講演内容等を広く一般に発信し、

この問題についての啓発を図るとともに、参加者以外の同じ問題を抱える家族（親）が認識を共有し、問題解決・軽減の一助となることを期してホームページを運営した。

③ひきこもり当事者就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして、就労支援活動を行った。

※日 時＝令和2年4月より月2日程度

※会 場＝全青協事務局

※内 容＝機関誌『ぴっばら』の発送作業等の軽度な作業及びPCを使った事務作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力及び作業スキルの向上を目指した。

④相談窓口の設置・運営

1) 不登校やひきこもり、自死念慮等、青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談・インターネット相談窓口において、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。

2) こころの相談室の運営

全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患等の悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合等に随時面接を行った。

3) 貧困母子家庭児童および自死遺児支援プログラムに関する調査

子どもを持つ家庭の貧困率上昇や近年の自殺者の増加傾向に伴い、貧困家庭児童及び自死遺児支援プログラムに関して継続的に調査を行った。特に被災地における現状の把握に務め、あおぞら奨学基金をはじめとする支援活動につなげた。又、不登校やひきこもり、自死念慮、児童虐待、DV、発達障害他、青少年や親等が直面する多様な問題に対して仏教情操教育をベースに当事者をサポートする「仏教子ども家庭支援センター（仮称）」の開設に向けて調査を行った。

⑤浄土宗ともいき財団「心といのちの電話相談室」開設事業協力

浄土宗ともいき財団が「心といのちの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して役員が相談役職として協力を行った。

※開設日時＝令和2年4月1日（月）～（毎週月・金曜日午前10時～午後4時）

※会 場＝東京都港区・明照会館内

⑥てらネットENパンフレット・小冊子の配布

てらネットENでは、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がり、寺院等においては当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりに関する基礎的な知識や対処法等を掲載した小冊子を、加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

(2) 「ぴっばら国際児童基金」の運営

①奨学金の支給

インドのスラムや路上で暮らす子どもたち、山岳部の遊牧民の子どもたち等、経済的な貧困状況のために教育を受けることが出来ない子どもたちをチャイルド・サポーター（里親）及び会員等からの支援金を基にし

て奨学金の支給を行っている。2020年度はインド国内34名の子どもたちが里子となっている。

②無料小学校の運営

学用品・教職員の給与等をはじめ、貧困層の子どもたちを対象とした無料小学校の運営に必要な運営費全般について支援を行った。

③無料診療所の運営

貧困家庭母子等を対象としたホメオパシー（免疫療法）を中心とした無料診療所を運営し、医薬品の提供および栄養補給等の支援プログラムを推進した。

④貧困家庭の母親を対象とした就労支援

貧困家庭の母親を対象に、職に就くための語学学習、編み物やクラフト製作等の就労支援を行った。
（公益社団法人全日本仏教婦人連盟との協働事業）

3 臨床仏教研究所運営事業

（1）臨床仏教師養成プログラム

—仏教者は現代社会のなかで人びとのこころにどのように寄り添うことができるのか—

平成25年度から現代社会の生老病死にまつわるさまざまな苦悩と向き合い、専門的な知識や実践経験をもとに行動する臨床仏教師を養成するプログラム《座学（公開講座）⇒ワークショップ⇒実践研修（OJT）》を実施している。

①臨床仏教師養成プログラム

関西第2期ワークショップ課程（第6期臨床仏教公開講座）開催

座学（公開講座）で学んだ生老病死の「今」を踏まえたうえで、現場において相手のこころに深く寄り添い、又、自分自身が燃え尽きてしまうことのないようにケアのあり方を理解するなど、活動のベースとなる技法を基礎から体系的に学ぶワークショップを、令和2年9月より原則隔週にて、全10回の連続講座として開催した。（花園大学等への協力事業）

※会場＝キャンパスプラザ京都（京都府京都市）

※参加者数＝18名

第1講 9月8日（火）：「仏教カウンセリング・傾聴法」

講師：丹治光浩（花園大学学長）・神 仁（臨仏研研究主幹）

第2講 9月29日（火）：「内 観 法」

講師：千石真理（臨仏研特任研究員・心身めざめ内観センター主宰）

第3講 10月13日（火）「生と死のプロセスワーク&マインドフルネス瞑想」

講師：神 仁（臨仏研研究主幹・東京慈恵会医科大学講師）

第4講 10月27日（火）：「苦集滅道（四諦）ワークショップ」

講師：ジョナサン・ワッツ（臨仏研研究員・慶応大学講師）

第5講 11月10日（火）：「グリーフケア」

講師：西岡秀爾（国際禅学研究所客員研究員）

第6講 11月24日（火）：「インターフェイス・チャブレンシー」

講師：高木慶子（上智大学グリーフケア研究所特任所長・臨仏研Advisor）

第7講 12月8日(火):「いのちのケア&スピリチュアルケア—方法論と実践」

講師:窪寺俊之(兵庫大学大学院教授・臨仏研Advisor)

第8講 12月22日(火):「ターミナルケア&セルフケア・チームケア」

講師:大河内大博(臨仏研特任研究員)

第9講 1月12日(火):「コミュニケーション・トレーニング&ロールプレイング①」

講師:吉水岳彦(臨仏研研究員・淑徳大学講師)

第10講 1月26日(火):「トラウマケア&ロールプレイング②」

講師:神 仁(臨仏研研究主幹・東京慈恵会医科大学講師)

②関西第2期OJT課程の考査を行った。

※日 時=令和3年3月8日(月) 9:00~15:00

※会 場=京都大学医学部芝蘭会館

※考査委員=神 仁(臨仏研研究主幹)・吉水岳彦(臨仏研研究員)・大河内大博(臨仏研特任研究員) 千石真理(臨仏研特任研究員) 西岡秀爾(国際禅学研究所客員研究員)

※内 容=筆記及び実技

※受験者=12名

※合格者=4名 井戸雅秀(西山浄土宗)・江頭真理子(黄檗宗)・岩浅慎龍(臨済宗妙心寺派)・加用雅信(浄土宗)

③第7期養成講座(公開講座)座学課程の開催準備を行い、プログラムを決定した。

第1講 5月12日(水):「新型コロナ時代における公衆衛生—縁起観に基づく共生社会」

講師:大井 玄(東京大学名誉教授・臨仏研 Advisor)

第2講 5月26日(水):「さよならのない別れ—突然の家族の死に向き合う」

講師:島 蘭 進(上智大学特任教授・臨仏研顧問)

第3講 6月9日(水):「生活困窮者に寄り添うこと—格差社会の中での支援のあり方」

講師:吉水 岳彦(臨床仏教研究所研究上席研究員・大正大学講師・臨床仏教師S.V.)

第4講 6月30日(水):「地域社会の再生へむけて—コーディネーターとしての僧侶の役割」

講師:袴田 俊英(心といのちを考える会代表)

第5講 7月28日(水):「切り捨てられる技能実習生たち—暮らせないから逮捕してくれ!」

講師:ティック・タム・チー(在日ベトナム人仏教信者会会長)

第6講 8月25日(水):「生きることをつなぐ、いのちをつなぐ—犯罪被害者家族のグリーフケア」

講師:本郷 由美子(下町グリーフサポート響和国代表)

第7講 9月8日(水):いのちの声を聴く—終末期における「いのちのケア」

講師:内山 美由紀(東京慈恵会医科大学訪問研究員・臨床仏教師)

第8講 9月29日(水):「よかったね よく来たね—子どもたちと共に育つ」

講師:和田 重良(くだけけ会代表)

第9講 10月6日(水):「寺子屋」子ども食堂の運営—若者たちによる子どもの支援

講師:松本 智量(八王子市仏教会理事長・全青協専門委員&地域大学生)

第10講 10月20日(水):「仏教者による災害支援—東日本大震災から10年を経て」

講師:神 仁(臨床仏教研究所研究主幹・東京慈恵会医科大学講師・臨床仏教師S.V.)

(2) 臨床仏教師オンラインミーティング・グループスーパービジョンの開催

第1回：令和2年11月17日（火）

※オンラインツール＝ZOOM

※コーディネーター＝神 仁（臨床仏教研究所研究主幹）

※参加者＝吉水 岳彦（臨床仏教研究所上席研究員）・ジョナサン・ワッツ（臨床仏教研究所上席研究員）大河内 大博（臨床仏教研究所特任研究員）・伊藤竜信（第1期臨床仏教師）・楠恭信（第1期臨床仏教師）・眞木興遼（第2期臨床仏教師）・森脇宥海（第2期臨床仏教師）・野田芳樹（第4期臨床仏教師）

(3) 令和2年度臨床仏教研究所公開研究会の開催 ※指導者研修会と同時開催

※日 時＝令和2年11月18日（水）

※会 場＝東京グランドホテル「芙蓉」の間・曹洞宗檀信徒会館

※活動事例発表：内山 美由紀（東京慈恵会医科大学訪問研究員）

「東京慈恵会医科大附属病院 緩和ケア診療部における「いのちのケア」の実施報告」

※参加者数＝48名

(4) 臨床仏教師（仏教チャプレン）資格認定制度に関する調査

今年度も引き続き、教育・福祉・医療等の臨床現場において、仏教精神に基づいた心理的・精神的ケアを行うことのできる臨床仏教師の資格認定制度運営に関する国内外での調査・準備を進めた。主要な病院等を訪問し、情報交換するとともに、臨床仏教師の活動の場を開拓することに努めた。

(5) 臨床仏教師の派遣

福島県立医科大学付属病院（福島県）・三友堂病院（山形県）・東京慈恵会医科大学付属病院（東京都）・四国がんセンター（愛媛県）をはじめ、全国の医療施設・福祉施設等20施設に臨床仏教師を派遣し、対象者の「いのちのケア」（スピリチュアルケア）に従事した。

(6) 臨床仏教研究所 公式ホームページ等による情報発信

臨床仏教研究所のホームページ、ブログ・フェイスブック等各種ソーシャルメディアと連動して講座内容、調査報告、プログラム運営等に関して情報の発信を行った。

4 出版事業

(1) 機関誌『びっばら』の発行状況

① 月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数
5-6	5,000	7-8	8,000	9-10	5,800	11-12	5,300	1-2	5,500	3-4	6,200

平均発行部数

5,967部

② 『びっばら』「特集」テーマ一覧

月	テ ィ マ
5-6	仏教と環境教育 ― 人間中心主義から生命中心主義へ

7-8	私たちとウィルス ――パンデミックをめぐって
9-10	教育は未来へのとびら ―― 無償学習支援の現場から
11-12	いま、そこにある困窮 ―― 「コロナ禍」 で何が必要なのか
1-2	介護を担う若者たち ―― 「ヤングケアラー」 をどう支えるか
3-4	東日本大震災から10年 ―― 今、私たちにできることとは

(2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少年向けの各種教材を発行。花まつり用ぬりえ、シール、風船、ポスター及び甘茶クッキー等を頒布した。

①教材等の製作

A) 甘茶クッキー

甘茶クッキーを「おかし屋ぱれっと」（障がい者の自立支援を行うNPO法人）と共同開発し頒布した。

②書籍・教材の調査及び研究

今後の出版事業につないでいくために、青少年関係の出版物並びに教材等を調査・研究した。

③出版物・教材の広報活動

出版物は会員以外への販路を開拓するべく、頒布活動に力を入れ、教材は成道会、お盆、花まつりをはじめとして、あらゆる機会を利用して、DM、チラシ等で広報した。

II 表彰事業（公益目的事業2）

青少年の健全育成に尽力し、社会の情操教育振興に功績のあった個人及び団体を表彰する事業

(1) 『正力松太郎賞』の実施

仏教精神に基づき、長年にわたって青少年の宗教情操の育成に尽力して顕著な実績をあげ、今後も活躍が期待される個人・団体を表彰した。

① 「第44回正力松太郎賞」

受賞者活動報告会及び表彰式：令和2年10月6日（木）於：東京グランドホテル

受賞者・団体

本賞：平野仁司師（浄土宗宗仲寺前任住職／神奈川県座間市）

一般社団法人仏教情報センター（代表：長谷川岱潤師／東京都文京区）

奨励賞：古仲宗雲師（曹洞宗雲昌寺副住職／秋田県男鹿市）

② 「第45回正力松太郎賞」

公募期間：令和2年9月から12月まで

選考委員会：令和3年3月2日（火）於：東京グランドホテル

受賞者・団体

本賞：上村正剛師（真言宗智山派光岩山釋迦院岩槻大師弥勒密寺住職／埼玉県岩槻市）

一般社団法人タンダバハダンスカンパニー（代表：中野真紀子氏／東京都中野区）

奨励賞：NPO法人日本語の美しさを伝える会（理事長：伊藤玄二郎氏／神奈川県鎌倉市）

(2) 優秀表彰の実施

情操教育を目的とした書道・絵画等を通じ優秀な成績をおさめた児童・生徒への表彰、又、青少年の健全育成に貢献した個人及び団体を表彰した。

- ・曹洞宗主催「第54回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・大正大学書道研究部主催「第69回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・炎天寺一茶まつり委員会主催「令和2年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞を授与。

Ⅲ 災害支援事業（公益目的事業3）

国内外の自然災害に際する緊急支援及び復興支援を行う事業

(1) 東日本大震災復興支援事業

石巻被災地支援センター等を拠点として、被災地の方々、特に子どもたちや高齢者の方々のニーズに応えるべく、精神的なケアにつながる支援を主とした活動を行った。

①孤独死・自死を防止するためのこころのケアを行う人員の派遣

こころのケアについて講習を受けたボランティアスタッフを組織し、定期的に復興支援住宅等において茶話会及び歳時に対応したイベントを開催した。

②「あおぞら奨学基金」の運営

2012年度に一般財団法人杉浦ブラムチャリヤ、公益社団法人全日本仏教婦人連盟と協働して「あおぞら奨学基金」を設立。東日本大震災で公的な支援の狭間にあつて就学困難な状況にある高校生のための給付型奨学金支給事業を基金事務局として運営を行った。今年度は宮城県・岩手県・福島県の公立高校を中心に302名に月々1万円の奨学金を給付し、それぞれの生徒が継続的かつ安定した就学環境を得ることに努めた。また、コロナウイルス感染症拡大による経済的影響を鑑み、ひとり親世帯の家庭を中心に、2020年末に乾物や調味料等の「年越しフードパック」の送付を行った。卒業生に対してはあおぞら奨学生卒業証書を授与した。

(2) 国内外緊急支援事業

2018年7月に発生した豪雨災害における被災者支援及び2019年9月に発生した台風15号・10月に発生した台風19号により被災した方々、特に被災児童や高齢者を対象各宗青年会と共同して物心両面での支援活動を継続的に行った。

① 仮設住宅等を巡るの巡回ハーブティーサロンの開催

被災地の仮設住宅、寺院、高齢者施設において月2回程度、西洋の漢方薬とも言えるハーブティー等を提供しながら、被災者の方々のこころのケアに当たった。実施にあたっては、曹洞宗青年会、真言宗御室派青年会等の協力を得た。

Ⅳ 管理

(1) 組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。又、各宗派の研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。会員数は令和2年3月末日現在、705名。内訳は「会員」246名、「活動会員」244名、「賛助会員」191名、「特別賛助会員」25名。※団体含む

2020年度事業報告附属明細書

2020年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2021年3月

公益財団法人 全国青少年教化協議会